

最強ボディー 銀我パネル

新発想から生まれた「銀我パネル」

一般的な合板は手で力を加えると曲ってしまうのに対し、銀我パネルは力を加えても簡単には曲がらない強度を保っています。



ねばり強さが特長の耐力壁「銀我パネル」

厚さ20cmもの木材繊維を7mmにまで圧縮し、さらにアルミフィルムでくるんだ銀我パネル。その大きな役割は、巨大地震にも耐える耐力耐震性能です。通常の木造軸組工法(在来工法)では、柱と柱の間に斜めに木材を入れる筋交いで強度を出していますが、柱と柱の間をこの銀我パネルで埋めたスモリの家は、筋交いの約5倍の強度(当社比)を誇っています。

銀我パネルの3つの特性

優れた輻射効果

銀我パネルのアルミフィルムは、家の外からの熱気や冷気、家からの冷気や熱気を反射します。外気温に関係なく室内の温度を快適に保ってくれるので、冷暖房効果も増します。

高い気密性

銀我パネルのアルミフィルムは、湿気はもちろん空気をいっさい通しません。さらに、銀我パネルと柱の間にゴムパッキンを施して家全体の気密性を保っています。

安心の耐震性

銀我パネルと柱の間のゴムパッキンが「軟骨」のように衝撃をほどよく分散、吸収する構造。そのため、強い地震にも余裕で耐えるねばり強さが生まれるのです。

銀我パネルは身近な素材から誕生した!

保冷容器と茶箱、スモリの家は2つを合体!



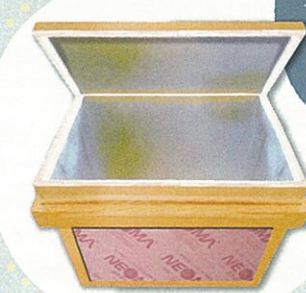
優れた断熱効果

1867年にドイツで開発されたEPS保冷容器は、外気からの温度にあまり影響されない特質があります。中を冷たく保てないと魚が腐ってしまうので、熱が逃げないように断熱材でできています。魚など生鮮食品の保冷容器やクーラーボックスなど今でも私たちの身近なところで活躍しています。



カビや湿気防止

茶箱の起源は1867年のパリ万博の際に日本ブームが起こり作られたと伝えられています。その後、明治頃に船での輸出の際、カビや湿気から守るために木材の木箱にアルミ板を貼り、お茶が痛まないようにしたそうです。現在では、ポテトチップス等のスナック菓子にもこの包装が利用されています。



この箱のように壁・床下のベタ基礎・天井の六面を銀我パネルで覆うから強い!

高性能断熱材で外側からしっかりガード。構造体を施工すれば、同時に高断熱工事まで完了する、スモリだけの画期的工法です。

「銀我パネル」とは、MDF(中密度繊維板)をアルミフィルムでくるんだ、スモリの家だけの特許パネルです。厚さ20cmほどもある木材繊維を7mmほどまで圧縮し、ねばり強さを生み出します。

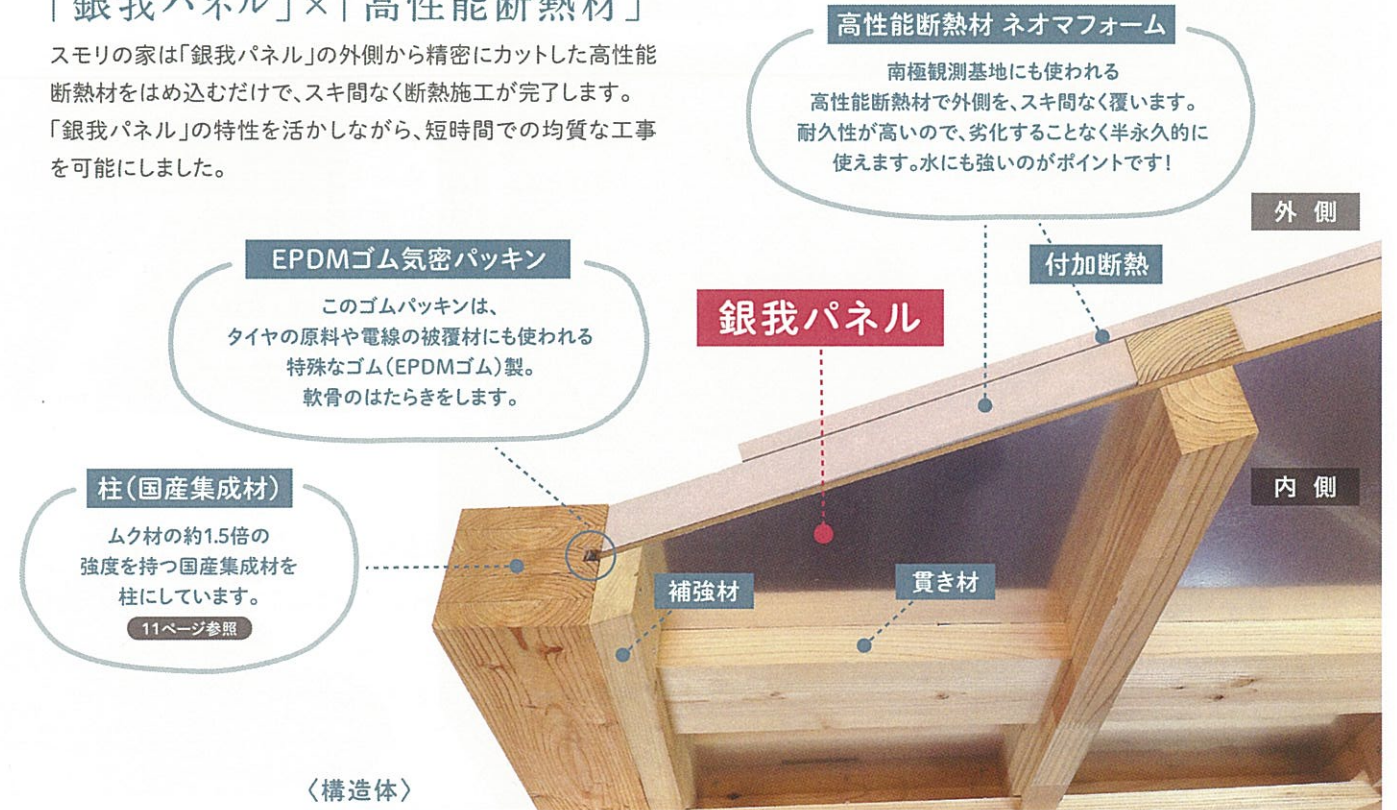
長寿命な神社仏閣に採用される「真壁構造」

構造材の柱が表面にあらわしになる真壁構造は、古くから日本建築に採用され高耐久性を発揮する工法として知られてきました。スモリの家は、この真壁構造を独自に発展させたもので、ゴムパッキン付きの溝がついた構造材の間に銀我パネルを挟み込むという構造です。銀我パネルのねばり強さをゴムパッキンがうまく補助することで強度が増し、強い地震の後でも高性能を維持することができます。



「銀我パネル」×「高性能断熱材」

スモリの家は「銀我パネル」の外側から精密にカットした高性能断熱材をはめ込むだけで、スキ間なく断熱施工が完了します。「銀我パネル」の特性を活かしながら、短時間での均質な工事を可能にしました。



EPDMゴム気密パッキン

このゴムパッキンは、タイヤの原料や電線の被覆材にも使われる特殊なゴム(EPDMゴム)製。軟骨のはたらきをします。

柱(国産集成材)

ムク材の約1.5倍の強度を持つ国産集成材を柱にしています。

11ページ参照

高性能断熱材 ネオマフォーム

南極観測基地にも使われる高性能断熱材で外側を、スキ間なく覆います。耐久性が高いので、劣化することなく半永久的に使えます。水にも強いのがポイントです!

外側

内側

〈構造体〉